

男女がともに 輝くために

美浦村男女共同参画
～共に輝くみほの会～

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)209

「日本女性会議2025榎原」

松山 和子

10月3日～5日、奈良県橿原市において開催された「日本女性会議2025榎原」に参加しました。

大会テーマ
日本国はじまりの地から未来へ、多様性を認め合う社会の実現を

大会では、「『日本国はじまりの地』から、誰もが生き生きと自己実現できる未来を目指す」というテーマに沿って、講演会やシンポジウム、中高生が行う未来会議等が行われました。全国各地から多くの参加があり、男女共同参画の実現に向けた意識の高まりを感じることができました。

今回は、私がその中で参加した分科会の提言についてご紹介します。

生き方×働き方

「なりたい自分」提言

▼地域で女性が直面している「経済分野」におけるジェンダーギャップの背景にある「女性」×「働く」を阻む5つの壁を可視化

- ①女性自身 経験やスキル不足、ライフイベント等
- ②職場 労働時間、働き方、ハラスメント
- ③ケアサービス 保育、学童、家事代行、介護等
- ④家庭 家事や育児負担
- ⑤社会規範 社会保障制度、税制、企業の家族手当等

・地方自治体や地域のステークホルダーとの連携による課題解決が重要
・男女が「公正」である事の重要性を再確認

▼男女が「公正」となるために、個人や組織で何ができるのか？を考えました。

★固定概念や壁を『決めつけ』ていませんか？意識改革が必要

★誰もが「ありたい姿」で生きられる社会を目指すことが重要

・より添える事、時間を分けあおうと思う事、心から優しく思う事を明日から意識します！

・男女の「誰もが」育児休業を取る意識！両親で子育てを当たり前に！

・女性に意思決定の売に関わるコミュニケーションをつくりたい！

・生活者の声が届く仕組みを地域に作れたら良いな。

・自身・業界の「決めつけ」を無くそう！

・活力あふれる生活を送る意識をする！

・自分の事を考える時間をつくりたい！

(中略)

▼今日からできる具体的な行動を積み重ねよう！

分科会「女だから、男だから」ではなく、生きやすい社会にするために、榎原が変われば、奈良が変わる、そして日本を変える！より



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「稲刈」

稲穂すっかり頭を垂れて郷の日暮れにいわし雲

猛暑続きで心配したが無事に稲刈り安堵する

今度稲刈りするよと言われ売るの減らして備蓄米

稲を刈る子等よろけて掛けて笑顔のぞかす天日干し

黄金色した稲穂も刈り田野山すっかり秋景色

嫌な思いの光景浮かぶ体すくんだ青田刈り

汗の努力が実って嬉し予想うわまる稲の出来

稲を刈り取る最新鋭機一人動けば他立見

田圃一面黄金の稲穂ゆれて波打つ豊の秋

酷暑少雨に負けない力黄金輝く稲穂波

刈った田圃にしらさぎ群れて畦で用無し寝る案山子

老いて稲刈り手伝う孫と群れる白サギ秋景色

無事に稲刈り新米手にし苦労いずこに父の笑み

米価高値の大波寄せてゆれる稲穂の黄金波

役を終えても刈田の案山子すずめ見張って威張ってる

やっと刈り終え苦労を見てた犬が俵を寝ずの番

刈って三日でまた草生えるこんな強さに戻りたい

十月の俳句(題 当季雑詠)

二番穂を刈り取りらせて減反す

風吹けば白波立てるそば畑

頬張れば腕につたわる梨の汁

数独に疲れし脳や長き夜

行灯をたどれば庵秋の宵

マンホールの蓋跳ね上げる秋出水

集落の長屋門カフェ秋日和

世界から韋駄天集う秋の空

軒先の風船曼風を呼ぶ

娘の契り神有月の神楽殿

あざやかな緑のジュータン稲刈後

五十首順

石戸 律華

伊藤 葉子

井戸 賀蘇道

上野 八千代

小園 江久美

門脇 悠美

篠原 美千代

関根 秀子

高橋 一步

田島 草実

塚本 夏雲

沼寄 朋香

長谷川 悦子

増尾 青蓮

山岡 亜子

山崎 笑子

山崎 泰弘

五十首順

市川 紀行

海道 民子

高柳 幸子

田島 早苗

中島 輝子

長田 敏笑

増尾 尚子

松葉 統子

村崎 典子

山口 美代子

新宮 和子